Japan Society of Obstetrics and Gynecology

生涯研修プログラム 2. 専門委員会報告—活動の軌跡—

3) 周産期委員会

浜松医科大学副学長 寺 尾 俊 彦

1. 周産期管理登録：平成8，9年度周産期死亡登録，周産期死亡個別調査を行った．今回からは22週以降に出産した児を全例対象とし，臨床死因の奇形，その他については，ICDコードで記載し，その内容を明確にした．97%の登録施設より回答があり，解析結果を日産婦誌に報告した．

2. 妊娠41週の分娩誘発の取り扱いについて：妊娠40週以降の妊婦を，委員会内施設において現状どのように扱っているか後方視的に調査し，この解析結果を日産婦誌に報告した．

3. トリプルマーカーの適正な使用について：厚生省の厚生科学審議会の専門委員会見解をもって，適切に対応することにした．

4. 公的臍帯血バンク運営に関して：臍帯血移植検討委員会が作成した指針をもとに，今後どのように対応していくか討議した．

周産期における先端医療のあり方検討小委員会

日本における胎児治療の動向を知るため，胎児治療の登録調査を施行した．今後もこの事業を継続するとともに，この事業を通じて得られた情報の公表作業についても検討した．

周産期医療システムにおける情報ネットワークの整備に関する検討小委員会

日母と共同で母体搬送情報提供書，ならびに新生児搬送情報提供書を作成し，これを全国的に普及させる努力をした．また，ICD9からICD10への病名コード変更についても検討し，データ発生源入力についても試作した．

早産の原因に関する検討小委員会

本委員会に所属する施設で，妊娠22週以後妊娠34週未満で早産に至った715症例について，早産と健診との関連性について検討し，日産婦誌に報告した．

4) 教育・用語委員会

昭和大学教授 矢 内 原 巧

1. 卒後研修に関して日本産科婦人科学会認定医制度の定める研修内容に則したaudio-visualな教材の作製について昨年に引き続き検討を行った．

2. 産科婦人科用語集および解説集の内容につき検討を行った．

3. 日本医学会用語委員会からの要望に従い次期日本医学会用語辞典に載せるべき産科婦人科関係の用語を提出しその改定に協力した．

卒前教育・卒後研修調査小委員会

1. 卒後および生涯研修に用いられる教材のCD-ROM化の可能性を専門家を交え検討した．また，教材小冊子の作製を機関誌研修コーナーとの関連で検討した．これらに関するものとして卒後研修手帳にある研修指導医の評価方法ならびに評価基準，指導医の研修方法等につき検討を行った．特に米国に置けるACOGのeducation systemを参考として各種教材の送付を依頼し，さらに第50回日本産科婦人科学会総会時にはACOGのDirector of EducationであるDr. Holzmanを認定委員会の協力のもとに招聘し，生涯研修プログラムの一つとして研修指導者のためのセミナーを開催した．また会長の御好意によりACOGブースを展示会場に設置し各種教材の展示とCD-ROMの実際の利用方法など会員に体験してもらった．

2. 第51回日本産科婦人科学会総会時における生涯研修プログラムの立案に協力した．

産科婦人科用語．諸定義検討委員会

日本医学会の要請に基づき，日本医学会医学用語辞典の改変・編纂に協力した．本医学会医学用語辞典は日本医学会総会の記念事業の一環として計画されたものであり，そのため医学会加盟各学会が協力を要請されたものである．各委員が分担をし，本学会編纂の産科婦人科用語集ならびに用語解説集から医学会医学用語辞典に必要な用語，解説の検討，校正を行った．

NII-Electronic Library Service